

文京学院 100 ANNIVERSARY

〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学院
文京学院大学外国語学部・経営学部・
人間学部・保健医療技術学部／大学院
／文京学院大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部
／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806
〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校
文京学院大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込6-18-3
☎03-3946-5301

2024年発行の学院紙は、創立100周年を記念した特別カラーの題字となります。



BUNKYO GAKUIN 100TH ANNIVERSARY SINCE 1924-2024

あなたと共に未来を紡ぐ Change Challenge Continuity

唯一無二の100周年

学院長・理事長 島田昌和



100年間の
時間・空間の

学長 福井 勉



いよいよ100周年です。いまだかつてない、唯一無二の100周年にしたいものです。在校生、卒業生、現役・OBOG教職員、支えてくださる多くの方にとって、来し方を振り返り、行くべき道を定める100周年にして参ります。みんなで楽しみましょう！

新しい風景、
夢の続きを
見よう

名誉学院長
島田 燐子



皆様、令和6年、そして文京学院創立100周年おめでとうございます。100年前、島

田依史子先生は勇気を出して学校を創立されました。数々の困難に会われましたが「生徒、学生がかわいい、みんなのためによい教育を」と頑張られました。この気持ちは私も同じです。みんなで助けあって夢の続きを見ましょう。

New Year Messages

～学院創立100周年への想い～



清きおみなの手業をば

中学校高等学校 校長 清水直樹

「清きおみなの手業をば修め習いて努めよ」とこれは本校の校歌の一節です。1924年開校当時の生徒たちが修め習う手業はお裁縫でした。2024年一今の生徒たちが21世紀を生き抜くための手業とはいったい何なのでしょう。自ら思考する力、世界標準の英語力、そして多様性を楽しむ心。本校が目標として掲げるこれらの力がその答えのひとつになると私たちは考えています。

次の100年をつくる
子どもが育つために



ふじみ野幼稚園 園長
柄田 毅

新年のお慶びを申し上げます。文京学院創立100周年を迎える本年も、園児の健康と安全を基本に、一人ひとりが力を発揮し、友だちとともに創造的に遊び、個性が輝くように育んでいきます。次の100年をつくる創造的な子どもに成長してほしいと願います。

依史子先生が思いを抱いて 開かれた幼稚園



文京幼稚園 園長 益田 薫子

創立者の思いを胸にこれからも大切にしていけるべきこと、それは、子どもが「やってみよう」という意欲から、たくさんチャレンジできる環境をつくること。遊びの中で「発見」することが大事です。そして、友達を思いやる気持ちを育てることが「生きる力」を持った子ども、非認知能力の向上に繋がると考え、全教員で温かく保育をしていきます。

新年のごあいさつ

仲間と共に

中学生徒会 会長 畠山 礼佳 (3年 菊組)



新年あけましておめでとうございます。第42期生徒会は、今まで新型コロナウイルス感染症拡大の影響でできなかったことや新たに挑戦してみたいことを目標として活動してきました。特に文女祭では、「緑日」をテーマに企画・実施しました。お子様からお年寄りまで幅広く楽しんでい

ただけで、生徒会一同とても嬉しかったです。第42期の活動はあと僅かとなってしまいましたが、最後まで仲間と共に新しいことに挑戦し続けたいです。本年も精一杯努めますので、どうぞよろしく願っています。

時代

高校生徒会 会長 中西 美穂 (2年 萩組)



新年あけましておめでとうございます。昨年は、校長先生をはじめとした多くの先生方、生徒の皆さんに支えていただいた1年となりました。新型コロナウイルスの規制緩和に伴い、文女祭は久しぶりの通常開催ができ、嬉しさや期待が高まる一方で、一つひとつ最初からつくり上げていく大変

さも感じました。来校してくださった方々が楽しんでいる様子を見て、とても嬉しく、準備を頑張った良かったと感じました。本年は、学院創立100周年を迎えます。今までの伝統を大切に、さらに飛躍できる年になるよう、生徒会一同精進してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

いつも支えてくださっている皆様のために

本郷キャンパス学生自治会本部 会長 加藤 大和 (経営学部3年)



新年あけましておめでとうございます。日頃より、学生自治会の活動にご理解・ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。昨年は新型コロナウイルスの影響も落ち着き、各イベントも対面開催が可能になり、例年より活発に活動ができた

た。新入生も多く入会し、次世代の育成も進んでおります。皆さまの学生生活が一層有意義なものになるよう、学生自治会一同精進してまいります。引き続き、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

楽しい大学生活を送れるように

ふじみ野キャンパス学生会本部 会長 戸谷 龍希 (人間学部2年)

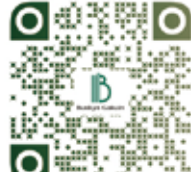


新年明けましておめでとうございます。日頃より、学生会の活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。昨年は役員増員の目標を達成し、多くの役員が学生会でご尽力され、以前では考えられなかった斬新な企画やイ

ベントの提案ができるようになり、組織拡充を実感する年でございました。今年も、皆様を楽しめる取り組みや、団体運営の円滑化に挑戦してまいります。引き続きご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



学校法人文京学院は2024年に創立100周年を迎えます。現在、大学の公式サイト内に周年事業に関する情報を発信するページを公開しています。経営学部卒業生がデザインした記念ロゴをはじめ、キャッチフレーズ、本学院の歴史、100周年記念事業や募金などを紹介していますので、ぜひご覧ください。今後もウェブサイトや学院紙にて、100周年に関する各種プロジェクトやイベント等のトピックスや進捗情報を随時発信していきます。



高校 社会起業家フォーラムに本校生徒が参加「SAGE JAPAN」全国大会・キャリア甲子園に向け士気高揚

10月22日、「第15回コモンズ社会起業家フォーラム」(主催:コモンズ投信)が駒込キャンパスジャシーホールで開催されました。今年は、「あなたは今、どんな流れをつくりたいですか?」をテーマに、社会課題解決のために自ら行動を起こした10名の社会起業家たちが集結し、マイク1本と想いだけを手を、7分間のスピーチリレーを展開。当日は、イベント会場をオンラインで繋ぐハイブリッド型での開催となり、会場では約120名の参加者が白熱のスピーチに耳を傾けました。



フォーラムを聴講した生徒たち

今回は、大学生と協力しながら社会問題の解決に向けて新たな事業を提案していく試みであるSAGE (Students for the Advancement of the Global Entrepreneurship)の活動に参加する本校生徒2名とマイナビキャリア甲子園に参加する本校生徒1名も本フォーラムを聴講し、3月に行われるSAGE JAPANの全国大会でのプレゼンテーションに向けて、社会の第一線で活躍する社会起業家の方々のスピーチから「アントレプレナーシップ」を学びました。今回参加した本校の生徒から以下の感想が寄せられました。

稲葉 千乃・市原 未羽・尾崎 由佳 (国際教養コース・2組)

「私たちも社会問題に関心があり、SAGEやキャリア甲子園に参加していますが、今回登壇された皆さんは自分自身の問題意識に基づき既に行動されていて、率直に渡りかたを感じました。このフォーラムに参加して、自分たちが取り組んでいる以上に多くの社会問題があること、経験を語る時には沢山の熱量を持ってること、そして人に何かを本当に伝えたい時にはパワーポイントも原稿もなく堂々と話すことが大切であることを実感することができました。この経験を自分たちの発表につなげたいと思います」

大学 あやめ祭で川越リアート作品を展示・販売

10月21日・22日の2日間、ふじみ野キャンパスで開催された大学祭「あやめ祭」にて、障がい者のアート作品から新たな商品を生み出し、障がい者の自立や観光振興を目指す「川越リアートプロジェクト」に参画している人間学部人間福祉学科の学生と梶原隆之教授が、川越リアート作品の展示・販売を実施しました。「リアート」(造語)とは、障がい者アートに川越市民やクリエイターの手が加わり、より魅力的な作品を創造する意味です。

当日は、作品の展示・販売に協力いただいた障がい絵師の杉田大河氏も来展・見学されました。また、多くの障害者就労支援施設においても障害のある方々によって制作されている「さをり織り」が会場を彩る中、織り師の溝井英貴氏による実演も実施されました。「さをり織り」は、感じるままに好きなように織る織物で、「差」を「織る」という意味が込められています。福祉を学ぶ学生達は、川越リアートプロジェクトの活動を通して、学生だからできることを見出しながら、今後も活動を続けていきます。



展示・販売されたアート作品の数々



障がい者アートの展示・販売を行った学生たち(左から2番目が杉田氏、一番右が梶原教授)

大学 「ふじみ野ステラ・ウェスト」オープニングイベントに幼稚園年長組と人間学部教員が出演



11月4日、文化施設と図書館が一体化した複合施設「ふじみ野ステラ・ウェスト」(埼玉県ふじみ野市)がオープンし、4日・5日の2日間にわたってオープニングイベントが開催されました。

4日のオープニングイベントでは、ふじみ野幼稚園から年長組の園児たちが出演し、手話と合唱が披露されました。また、園児たちの出演の際には、人間学部の椛島香代学部長・教授と渡辺行野准教授がピアノ連弾でサポートしました。さらに、人間学部の小林剛史教授と渡辺行野准教授はフルート&ピアノでブラームスのソナタを演奏し、会場を魅了しました。尚、当日の演奏曲目は右の通りです。



【ふじみ野幼稚園年長組】
連弾「陽だまりの中で」
入場:「さんぽ」
歌と踊り:「うたをパンパン」
歌と手話:「にじ」
退場:「まのこえそらのおと」
連弾「あの日の川へ」
【小林教授&渡辺准教授によるフルート&ピアノのデュオ】
ブラームス:ソナタ
Brahms:Sonata op.120-1 f-moll



大学 レイクランド大学ジャパン・キャンパスとの英語プレゼンテーションコンテスト開催

11月15日、本郷キャンパスにて、包括協定校の레이크ランド大学ジャパン・キャンパスとの合同英語プレゼンテーションコンテスト「2023 LUJ×BGU PRESENTATION CONTEST」が開催されました。

今回のコンテストは、本学外国語学部1年次必修科目「初年次セミナーb」の一環として行われ、「The World is... (世界は)」をテーマに、両大学で選ばれた学生ファイナリスト10名が登壇しました。本学外国語学部の金彦叔学部長・教授、フェアバンクス香織教授と레이크ランド大学・ジャパンキャンパスのDr. Paul Snowden, Dean Charles Laurierが審査員を務め、両校の学生が「Turmoil」、「Changing」、「Beautiful, but full of Problems」など、「世界」に関する様々なタイトルで交互に熱のこもったスピーチを英語で展開しました。最終的には、審査員によって「第1位」から「第3位」が決定、さらに、会場にいた学生の投票で「Best of BGU」、「Best of LUJ」が選出されました。



本学からは、龍智宇さん(経営学部3年)が「第1位」「Best of BGU」のダブル受賞、大嶋奈緒さん(経営学部3年)が「第2位」に輝きました。尚、大嶋さんは昨年に引き続き、2度目の受賞となりました。受賞学生2名のコメントを以下に掲載します。

第1位 龍智宇 (経営学部3年)

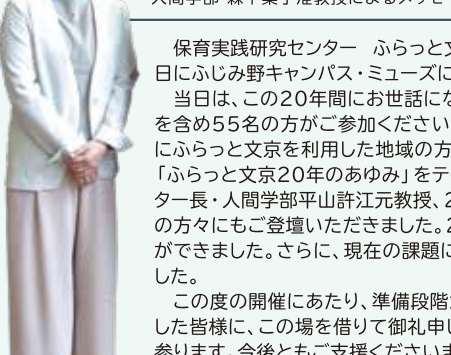
「入賞することができ、本当に最高の思い出になりました。自分の努力だけでなく、周囲のサポートや助言のおかげだと深く感謝しています。これからもこの経験を活かし、成長していけるよう努力していきたいです」

第2位 大嶋奈緒 (経営学部3年)

「昨年2位を受賞し、今年は1位を獲るという目標がありました。結果は2位でしたが、同じゼミで一緒に練習してきた龍さんと共に入賞できてとても嬉しかったです。結果にも満足しています。本大会を通して、英語力の向上だけでなく、どうすれば人を惹きつけるプレゼンテーションができるかも学ぶことができ、自分のこれからプラスになりました」

大学 保育実践研究センター20周年記念行事「ふらっと文京20年のあゆみ」開催

保育実践研究センター長 人間学部 森下葉子准教授によるメッセージ



保育実践研究センター「ふらっと文京」は、今年、開設20周年を迎えました。これを記念し、11月25日にふじみ野キャンパス・ミュージアムにて、記念行事を開催しました。当日は、この20年間にお世話になった方や学生時代に頻りに利用していた卒業生、教職員の皆様を含め55名の方がご参加くださいました。冒頭に福井勉学長より挨拶をいただいた後、これまでに「ふらっと文京」を利用した地域の方々、卒業生の方々からのメッセージをまとめたムービーの上映、「ふらっと文京20年のあゆみ」をテーマとしたリレートークを行いました。リレートークには、初代センター長・人間学部平山許江元教授、2代目センター長・同学部加須屋裕子教授をはじめ、元・専任職員の方々にもご登壇いただきました。20年間の振り返り、あらためて当センターの理念を確認することができました。さらに、現在の課題について、登壇者の皆様から愛の溢れる温かい示唆をいただきました。この度の開催にあたり、準備段階からご協力くださいました教職員の皆様、当日ご参加くださいました皆様、この場を借りて御礼申し上げます。次の10年に向けて、当センターの事業を充実させて参ります。今後ともご支援くださいますようお願い申し上げます。

大学 「海と希望の学園祭 in kamaishi」経営学部生が出演・チャリティ販売

11月18日・19日の2日間、岩手県釜石市で「海と希望の学園祭 in kamaishi」(主催:釜石市)が開催され、今年も本学の経営学部生14名が出演・チャリティ販売を実施しました。

本学は、以前より釜石市と様々な取り組みを実施しています。2020年2月には、地域社会の発展・人材育成及び学術の振興に寄与することを目的とした包括連携協定を結び、2023年には学生が釜石で学ぶスタディケーションを実施し、地域交流を推進しています。

本イベントは、例年釜石市より出展の打診を受け、本学の学生にとっては地域活性化や街の賑わいづくりを学ぶ場となることから、本学も後援をしています。2回目の出展となる今年は、参加した学生14名のうち10名が釜石初訪問となりました。

イベント当日は、リサイクルアートにより「人魚姫の世界」を表現したフォトスポットの展示や、昨年好評をいただいた親子で楽しめる海のワークショップとして「海のいきもの帽子づくり」や「おさかなバスボムづくり」の開催、三陸鉄道沿線に自生し運行に支障となった胡桃の木の乾燥樹皮を活用した「おさかなライト」をはじめとする学生オリジナルアート作品のチャリティ販売などを実施しました。尚、チャリティ販売の売上は全額、釜石市に寄付されます。

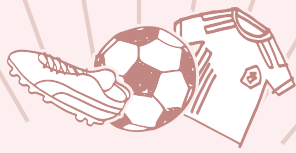
今回参加した学生からは、「子どもの視点になってワークショップを考えるのは難しかった。不安はあったが、自分たちが時間をかけて準備したものを楽しんでくれる様子を見てモチベーションが上がった」「プレメンズのinstagramに『親子で楽しむことができた』とメッセージをいただいたことが嬉しかった」などの感想が聞かれました。



胡桃の木の樹皮を活用した学生オリジナルアート作品 ワークショップの様子

フォトブースを設営する学生

高校



success

卒業生の活躍

デフフットサル女子日本代表 2023ワールドカップ金メダリスト

桐生(旧姓:鳥海)玲奈選手
【2016年文京学院大学女子高等学校卒業、
サッカー部OG】



11月10日~18日、ブラジルのサンパウロで開催されたデフワールドカップ(聴覚障害の世界大会)にて、デフフットサル女子日本代表として見事優勝を果たした本校卒業生の桐生(旧姓:鳥海)玲奈選手の活躍をお伝えします。



本校での在学当時、桐生選手は聴力障害のハンディキャップを抱えながら勉強と部活動(高校サッカー部)を両立していました。勉強では、耳が聞こえないので英語学習に苦勞し、サッカーでは、笛の音が聞こえず、オフサイドに気づかずにゴールキーパーに突っ込んでしまい、大けがをしたこともありました。
卒業後は職業訓練学校に通いながら、デフサッカーの道へ進みました。デフサッカーでも活躍しましたが、2019年にデフフットサルに転向。その結果、世界一を獲得しました。今回、桐生選手からメッセージが届きましたので、以下に掲載します。

「2018年にデフフットサルを始めて、経歴は6年になります。2019年2月に初めてアジア大会で優勝し、11月にスイスでデフワールドカップがありました。順調に勝ち続けたものの、準々決勝でブラジルと対戦し、1-2で負けてしまいました。ブラジルが優勝し、歓喜の瞬間を見て、すごく悔しかったのでリベンジすると決めました。
そして2023年、ブラジルでデフワールドカップが開催され、参加国は6チーム総当たりでした。ドイツ戦とアイルランド戦は引き分けてしまい、簡単な試合ではありませんでした。予選の最終戦でブラジルと対戦し、圧倒的な差をつけてリベンジを果たすことができました。予選の結果で決勝はブラジルと対戦になりました。アウェーの雰囲気にもまれながらの難しい試合でした。点の取り合いでお互いに譲らず、PK戦までもつれました。接戦の末、悲願の初優勝となり、とても嬉しかったです。フットサルを続けて良かったと感じました。
高校サッカー部の皆様、サッカーができる環境であることに感謝し、自信をもってチャレンジしていけるように頑張ってください」

中高

ソフトテニス部 中学:私立学校新人大会「優勝」「準優勝」 高校:東京インドア大会「ベスト16」

11月26日、「第39回東京私立中学校新人選手権大会」が開催され、中学ソフトテニス部の関根瑠美さん(2菊)・吉田遥さん(2栗)ペアが「優勝」、長谷川理紗さん(2桃)・畠山さわさん(2桃)ペアが「準優勝」を果たしました。私学大会は、昭和41年に第1回大会が開催された歴史があり、都内私学のソフトテニス部員がその頂点を争う大会です。今年は195ペア(総勢390名)がエントリーする中、23日にブロック予選、26日に決勝大会が開催され、本校ペアは他校の生徒を圧倒して決勝戦へ進出。優勝した関根・吉田ペアは昨年の同大会でも優勝しており、2年連続で東京都チャンピオンに輝きました。

11月23日、「東京インドア大会予選(新進大会・団体戦)」が開催され、高校ソフトテニス部の寺部結季さん(2杉)・小林鈴音さん(2萩)・正村杏里さん(1楓)・杉山咲陽子さん(1萩)・三澤春乃さん(1萩)・松岡海空さん(1杉)の6名が出場しました。本予選では、決勝戦も相手に1勝も与えず「ブロック優勝」を果たし、選抜大会への出場権を獲得。そして、12月25日、「第64回東京都高等学校ソフトテニスインドア大会」が開催され、生徒たちは自分たちの力を精一杯出し切り、「ベスト16」という結果で大会を終えました。



特集 注目のトピックス

Topic 01

「第22回文京エコ・リサイクルフェア」に人間学部中山智晴教授とゼミ生が参加
“若者の環境に対する意識調査”をテーマにブース出展

11月3日



Topic 02

「第20回全国藩校サミット文京大会 ~近代教育発祥の礎~」で島田昌和学院長・理事長が記念講演に登壇

11月18日



Topic 03

「文京オレンジデーキャンペーン」に外国語学部甲斐田万智子教授のゼミ生らが女性に対する暴力撤廃を訴える
メッセージを提示

12月18・7日



Topic 04

「話してみよう韓国語」東京・学生コンテストの「スピーチ部門」で佐々木結衣さん(外国語学部4年)が予選通過・本選でスピーチを披露

12月9日



Topic 05

博報堂 × 東京大学教養学部 大学生のためのブランドデザインコンテスト
「第12回BranCo!『遊び』」でGCI生3名が一次予選通過・プレゼンテーションを披露

12月16日



ひたむき・まへむき・おもむき
tomoちゃん

第91回

画:美術部(高校)N

